



例会 毎週金曜日 12:30～13:30 ホテル国際 21
事務局 〒380-0838 長野市県町 576 ホテル国際 21 内
☎026(235)2800 FAX026(235)0016
e-mail:nwrc1987y@sweet.ocn.ne.jp

会長／村田秀雄 幹事／太田裕志 クラブ会報委員長／坂本千尋
SAA／轟 修平 副SAA／藤澤克彦

第1635回例会 2022年（令和4年）7月15日（金）

イマジン ロータリー
IMAJINE ROTARY

会長挨拶

村田秀雄会長



こんにちは。今日はゲストに橋梁メンテナンス協会の月原光明さん、ようこそいらっしゃいました。後ほど卓話の方よろしくをお願いします

この一週間は日本中を騒がせる大変なことがありました。円安が続く中でアフターコロナかと思いきや、コロナ第7波になりつつあるBA5、感染者数がぶり返しております。それとウクライナ戦争の最中行われた参議院選挙。与党の圧勝に終わりました。昭和のままになっている日本国憲法は改正出来るようになるのでしょうか・・・そして、日本を守り国民生活を守ってくれるのでしょうか？そして消費税はさらに上がってしまうのでしょうか？

さて、選挙の最中驚き衝撃的だったのが、先週の例会1時間前に起きた安倍元総理への銃撃殺人事件でした。この頃のニュースで、犯人は旧統一教会に恨みを持っていたのとことで、今は世界平和統一家庭連合と名前を変えていますが、ここにこの会の信者はいませんか？聞くところによると、すべての財産をこの教会に捧げ入会し信者になるか・・・無一文になってどう生活していくのでしょうか？この会にビデオメッセージを流したことで犯人の思い込み勘違いで標的となってしまったとか。靈感商法と呼ばれ、過去現在も社会問題になっているこの教会を野放しにしているのはおかしいと思えますが・・・。

それにしてもどうして安倍元総理が選挙運動の演説中に公衆のいる前で凶弾に倒れなければならなかったのか・・・この事件については、あまりにショッキングでこの一週間日本中が喪に服している様です。謹んでお悔やみ申し上げます。

幹事報告

太田裕志幹事



- ・次週22日は、休会となります。
- ・29日は、村田秀雄年度第1回クラブ協議会が開催されます。11:30より葵の間にて。
- ・7月10日第1回地区チーム合同会議に村田弘志さん出席
- ・7月16日～17日長野女子高等学校の白梅祭が開催されます。幹事・川橋青少年奉仕委員長で訪問、活動費贈呈予定。
- ・7月24日地区補助金説明会がオンラインで行われます。幹事出席予定
- ・7月30日長野RC60周年記念式典 会長・幹事出席予定
- ・8月5日納涼会の出欠のご提出のまだの方は、入り口でご記入をお願い致します。

7/29 本日のプログラム

ゲスト卓話 足助俊明さん
「ディーラー営業マンから不動産経営への転身
～軽井沢の不動産事情～」

ゲスト 月原 光昭さん (橋梁メンテナンス協会)



・村田秀雄さん☆月原さんいらっしゃい。卓話よろしくお願ひします。
・佐藤吉朗さん☆月原さん、本日はありがとうございます。卓話楽しみにしています。

- ・清水光朗さん☆青木さん初孫の初参りの写真撮影お世話になりました。
- ・青木 宏さん☆清水さん初孫さん可愛かったです。おめでとうございます。先日久しぶりに権堂で午前様になってしまいました。
- ・南 信行さん☆12日に飯田さんと太田幹事のクルザーで赤イカ釣りを楽しみました。なき良く年長の飯田さんが竿頭 (サオガシラ) でした。幹事ありがとうございます。

・合計 11,500円 ・累計 71,450円

講師紹介

佐藤吉朗プログラム委員長



私にとっては、大学の先輩であり30年前独立する前に在籍していた会社の上司でもあります。大学を卒業してすぐ、地元の企業に就職しましたが、色々つくすぶっているときに、月岡さん

に東京の会社へ連れて行ってもらい、勉強をさせてもらいました。当時から人を巻き込み、人を集める行動力のある方だと思います。

最近、車で橋を渡ると工事をしている箇所が多いと思います。片側通行だったり、ネットを張っていたり、それはほとんど橋梁補修の工事です。月岡さんは、長野県でも橋梁補修に造詣が深く、本も出版されています。今日は、その辺のお話が聞けるとと思います。よろしくお願ひします。

例会案内

- 8月5日 納涼会 18:30~ やま茶屋
- 8月12日 休会
- 8月19日 ゲスト卓話 邱 文華米山奨学生
- 8月26日 ゲスト卓話 めいせん 明扇さん

ゲスト卓話 月岡 光明さん

「目の前の橋の耐荷力は？」



本日は、長野県に橋梁メンテナンスのNPO法人を設立した経緯と、長野県の橋梁補修の実情をお話させていただきます。

NPO法人橋梁メンテナンス技術研究所は、信州大学土木工学科 三井教授の協力のもと、産学官の連帯事業を目的とした「地域共同研究」として2007年設立されました。

橋梁のメンテナンスの必要性が注目され始めたのは、1984年にNHKでコンクリートクライシス (コンクリートの危機) が放映されたことがきっかけでした。当時、コンクリート構造物は半永久的でメンテナンスは不要と考えられていたが、塩害やアルカリ骨材反応によって劣化することが顕在化されたのです。アメリカでは、1930年代のニューデール政策による公共投資で多くの橋梁が建設され、その50年後の1980年代には、マイアナス橋の落橋など、多くの橋梁で劣化が顕在化して「荒廃するアメリカ」と言われました。

一方、日本では、1960年代の高度経済成長期に多くの橋梁が建設され、アメリカの状況から50年後の2010年代には、日本でも同様に橋梁の劣化が顕在化すると考えられ、橋梁のメンテナンスが急務であるとされました。このため、信州大学では1995年の橋梁メンテナンスの研究会が立ち上がり、それを継承してNPO法人橋梁メンテナンス技術研究所が設立されました。

現在、国・地方自治体ごとで橋梁点検が定期的に行われています。長野県で管理する橋梁は3829橋あり、そのうち建設後50年を経過した橋梁は約1/3の1088橋あります。ただ、現状の橋梁点検には問題もあると考えております。それぞれ自治体の点検マニュアルには違いがあり、点検の視点に相違があることで、点検状況に統一性・信頼性がないようにも見受けられます。今後の課題だと考えておりますが、長野県では精度の高いレベルで点検が行われており、全体の0.2%が緊急を要する状況で、おおむね、橋梁の健全は保たれていると考えます。

今後も、橋梁の補修・点検の一役を担っていきたくと考えております。

